

都道府県別の平成20年産水稻の生産事情

平成20年 3 月14日

農林水産省統計部

都道府県別の平成20年産水稻平年収量の生産事情

注:品種名の後の()は平成20年産作付面積割合(見込み)

	生 産 事 情
北海道	収量水準の高い「ななつぼし」の作付割合が増加し、また生産調整の進捗状況から低収量地帯の作付割合が減少する見込みである。(資料No.8参照)
青 森	「つがるロマン」(約5割半)、「まっしぐら」(約4割)を中心とする品種構成に大きな変化はない。適地適品種の作付け、適正な施肥管理等の徹底を推進している。
岩 手	「ひとめぼれ」(約6割半)、「あきたこまち」(約2割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。適地適品種の作付けを図り、高品質・良食味米の安定生産を推進している。
宮 城	「ひとめぼれ」(約8割)を中心とする品種構成に大きな変化はない。「売れるみやぎ米づくり」の実現に向け、特別栽培米等の高品質・良食味米生産を推進している。
秋 田	「あきたこまち」(約8割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。高品質・良食味米生産を推進するため、適期移植、土づくり肥料の適正使用等の指導が行われている。
山 形	「はえぬき」(約6割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。環境に配慮した栽培や特別栽培米推進のための施肥技術の徹底等の指導が行われている。
福 島	「コシヒカリ」(約6割)、「ひとめぼれ」(約2割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。「環境にやさしい米づくり」として、特別栽培米等の作付拡大を推進している。
茨 城	「コシヒカリ」(約8割)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質に重点をおいた栽培技術(適期移植・刈取り、健康な土づくりの推進等)の指導が行われている。
栃 木	「コシヒカリ」(約8割)を中心とする品種構成に大きな変化はない。良食味米の安定生産を図るため、生育診断に基づく適正な施肥、水管理等の指導が行われている。
群 馬	「ゴロピカリ」(約3割)、「あさひの夢」(約3割)、「コシヒカリ」(約2割)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質重視の栽培技術指導が行われている。
埼 玉	「コシヒカリ」(約4割弱)、「彩のかがやき」(約2割)、「キヌヒカリ」(約2割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質重視の栽培技術指導が行われている。
千 葉	「コシヒカリ」(約7割弱)、「ふさおとめ」(約1割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。食味や千粒重の向上を図るため、適正な施肥、水管理の徹底等の指導が行われている。
東 京	収量水準の高い「キヌヒカリ」の作付割合が増加し、宅地化に伴う耕地の減少等で収量水準の低い小規模農家の作付けが減少している。
神奈川	「キヌヒカリ」(約6割半)などからの転換により、収量水準の高い「さとじまん」(約1割半)の作付割合が増加している。品質向上に向けた適切な肥培管理等の指導も行っている。
新 潟	「コシヒカリ」(約8割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質に重点を置き、特別栽培米など高品質・良食味米の生産を推進している。
富 山	「コシヒカリ」(約8割)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質を確保するため、高温障害を回避するための適期移植指導等が行われている。
石 川	「コシヒカリ」(約7割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。高品質・良食味米生産にむけて1㎡当たりもみ数の適正管理等の指導が行われている。
福 井	「コシヒカリ」(約6割半)、「ハナエチゼン」(約2割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。低コスト化及び乳白米発生を回避するため、作期がやや遅くなる直播栽培を推進している。
山 梨	「コシヒカリ」(約7割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。高品質・良食味米を生産するため、適地適品種の作付けを推進している。
長 野	「コシヒカリ」(約7割)、「あきたこまち」(約1割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質重視のため、適期移植・適期刈取りの徹底等の指導が行われている。

都道府県別の平成20年産水稻平年収量の生産事情

注:品種名の後の()は平成20年産作付面積割合(見込み)

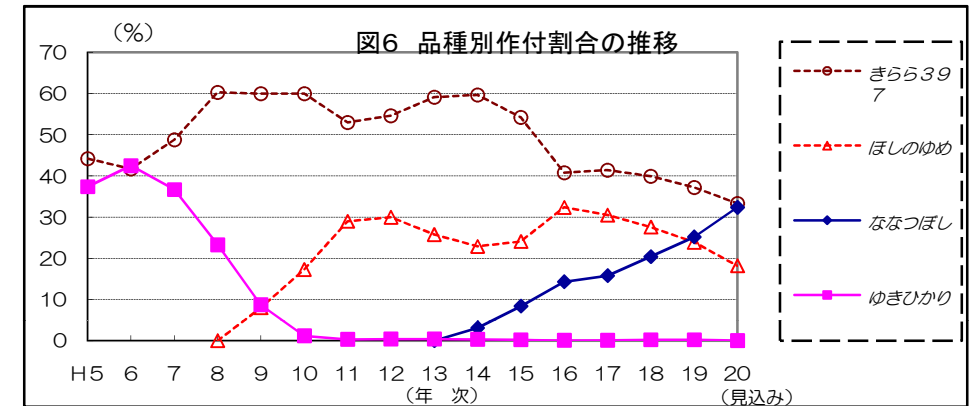
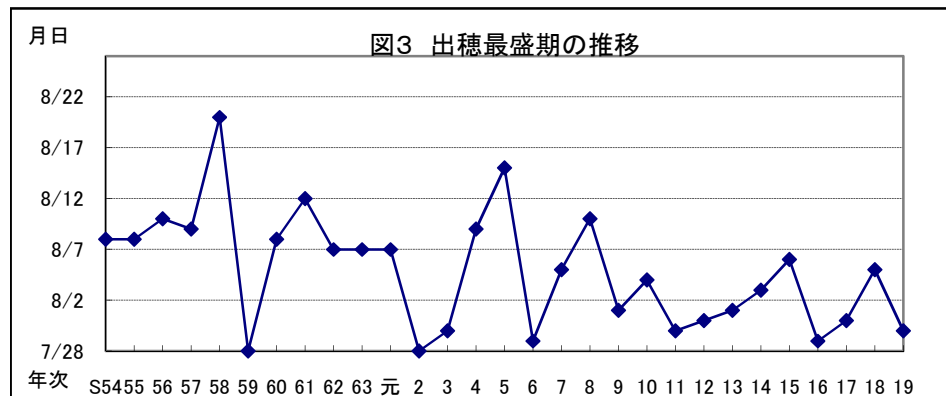
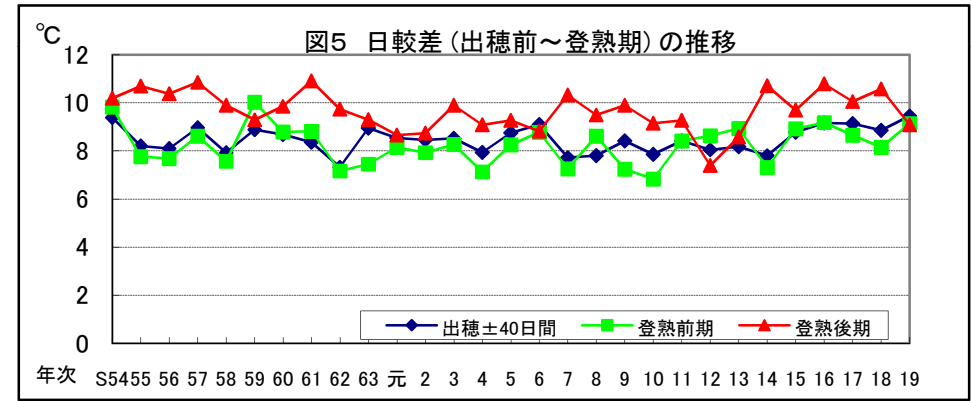
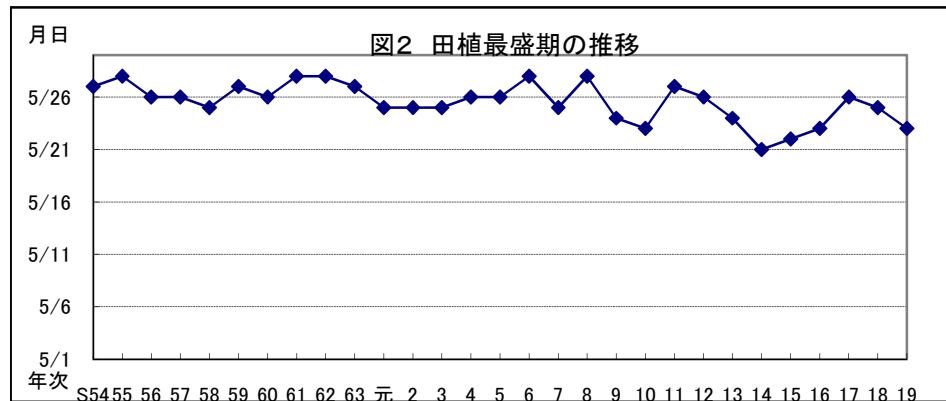
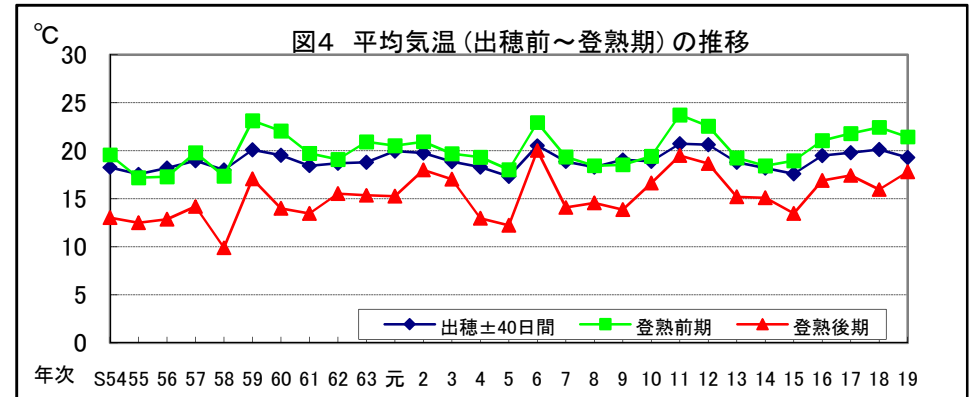
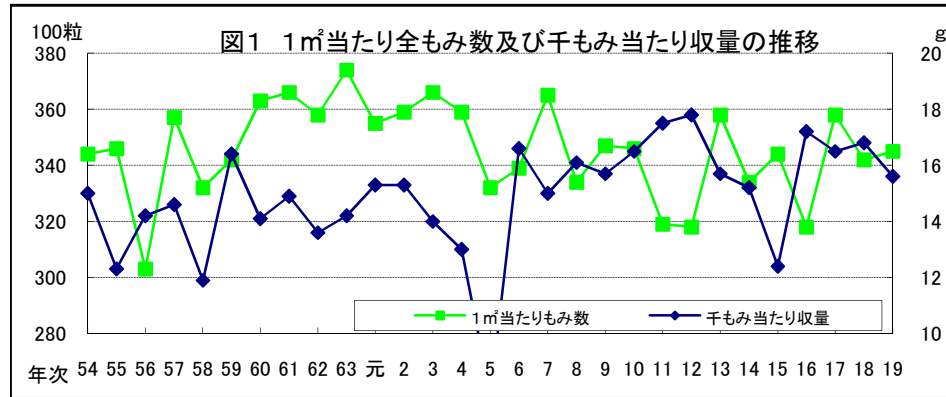
	生 産 事 情
岐 阜	「ハツシモ」(約3割半)、「コシヒカリ」(約3割)、「ひとめぼれ」(約1割)を中心とする品種構成に大きな変化はない。高温に対応するため、遅植え指導等を推進している。
静 岡	「コシヒカリ」(約4割)、「あいちのかおり」(約2割弱)、「キヌヒカリ」(約1割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質向上のため、適期刈取りの徹底等の指導が行われている。
愛 知	収量水準の高い「あさひの夢」(約1割)の作付割合が増加し、また移植栽培より収量水準が高い直播栽培(不耕起V溝直播栽培)が普及している。
三 重	「コシヒカリ」(約8割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。高品質・良食味米を生産するため、適期・適量追肥等の指導が行われている。
滋 賀	「コシヒカリ」(約4割)、「キヌヒカリ」(約2割)、「日本晴」(約1割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。琵琶湖の水質に配慮した「環境こだわり米」を推進している。
京 都	「コシヒカリ」(約5割)、「キヌヒカリ」(約2割)、「ヒノヒカリ」(約1割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。環境と食味に配慮した栽培技術の指導が行われている。
大 阪	「ヒノヒカリ」(約6割)、「キヌヒカリ」(約1割半)、「祭り晴」(約1割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質向上に向けた適切な肥培管理等の指導を行っている。
兵 庫	「コシヒカリ」(約4割)、「キヌヒカリ」(約3割)、「ヒノヒカリ」(約1割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。適期防除による農薬の低減等の指導が行われている。
奈 良	「ヒノヒカリ」(約7割)を中心とする品種構成に大きな変化はない。高品質・良食味米生産にむけて適期刈取り等の指導が行われている。
和歌山	「キヌヒカリ」(約4割)、「コシヒカリ」(約1割)を中心とする品種構成に大きな変化はない。高品質・良食味米生産にむけて適期刈取り等の指導が行われている。
鳥 取	「コシヒカリ」(約6割)、「ひとめぼれ」(約3割)を中心とする品種構成に大きな変化はない。倒伏の頻発化を回避するため、営農指導等により施肥量を相当量減らした栽培が定着化している。(資料No.8参照)
島 根	「コシヒカリ」(約7割)からの転換により、収量水準の高い「きぬむすめ」(約1割半)の作付割合が増加している。健苗育成や適正な肥培管理等の指導が行われている。
岡 山	「ヒノヒカリ」(約2割半)、「アケボノ」(約2割弱)、「コシヒカリ」(約2割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。適期・適量施肥等の指導が行われている。
広 島	「コシヒカリ」(約4割)、「ヒノヒカリ」(約2割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。低コスト・省力化に向けて粗植栽培等を推進している。
山 口	温暖化によるマイナスの影響が現れはじめており、また「コシヒカリ」(約3割半)より収量水準の低い「ひとめぼれ」(約2割半)が増加している。省力化に向けて直播栽培を推進している。
徳 島	「コシヒカリ」(約5割強)、「キヌヒカリ」(約3割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。低コスト・省力化に向けて粗植栽培・乳苗移植を推進している。
香 川	「ヒノヒカリ」(約4割半)、「コシヒカリ」(約4割弱)を中心とする品種構成に大きな変化はない。収量確保・品質向上に向けて適正な水管理等の指導が行われている。
愛 媛	「ヒノヒカリ」(約3割)、「コシヒカリ」(約3割)、「あきたこまち」(約3割)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質向上に向けて適正な水管理や肥培管理等の指導が行われている。
高 知	「コシヒカリ」(約5割半)、「ヒノヒカリ」(約2割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質低下対策として適正な水管理や遅植え指導等が行われている。

都道府県別の平成20年産水稻平年収量の生産事情

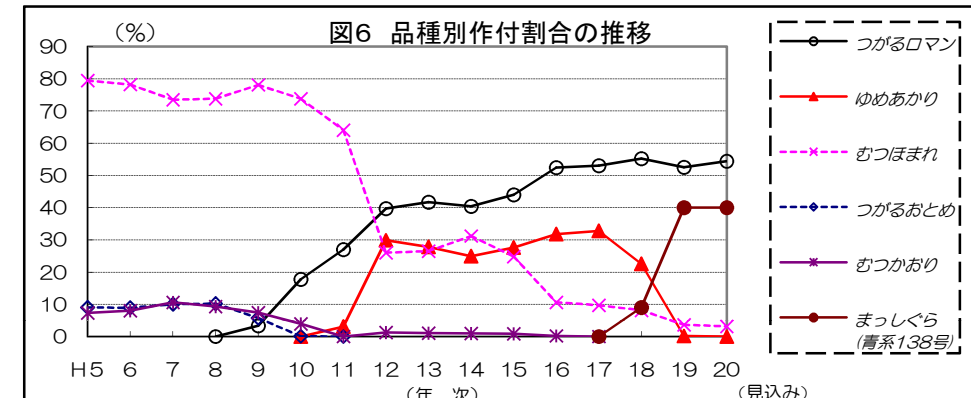
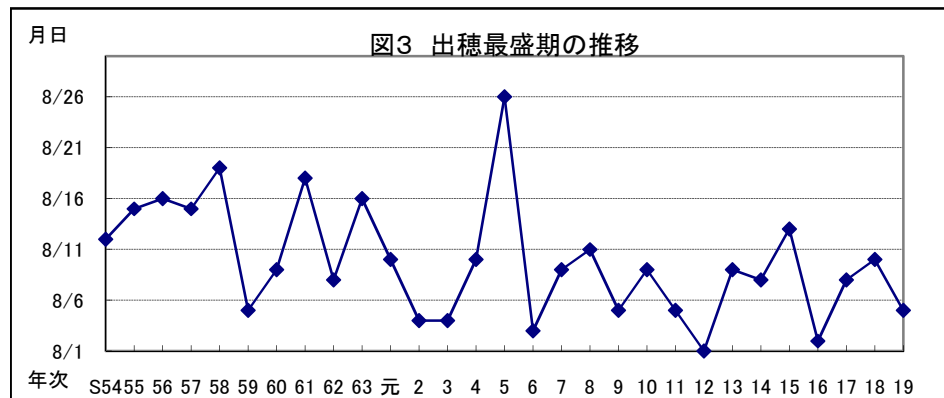
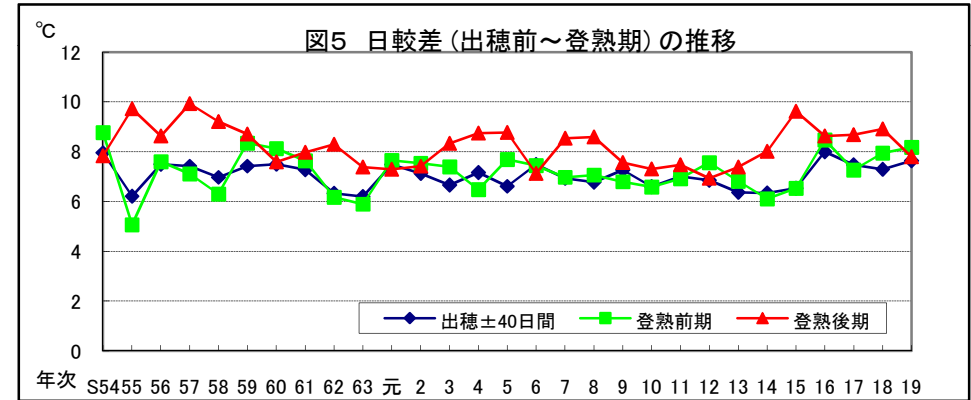
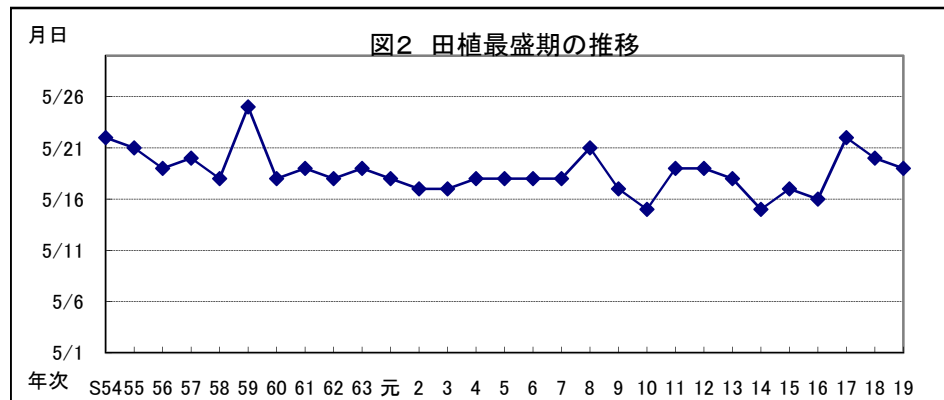
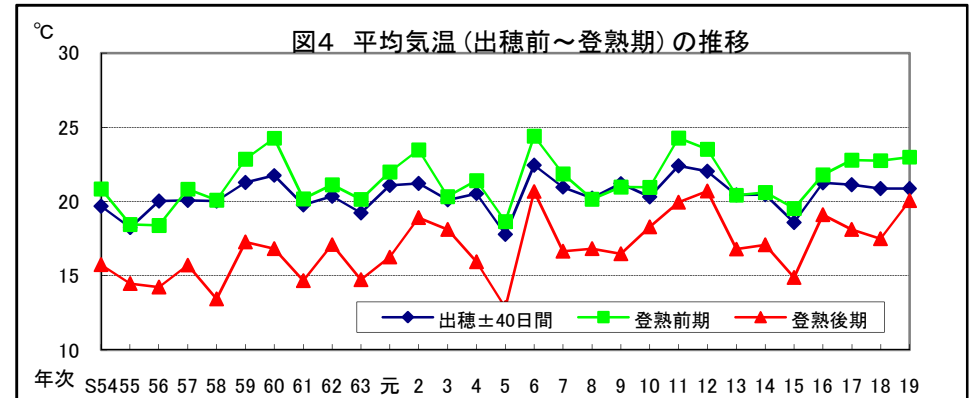
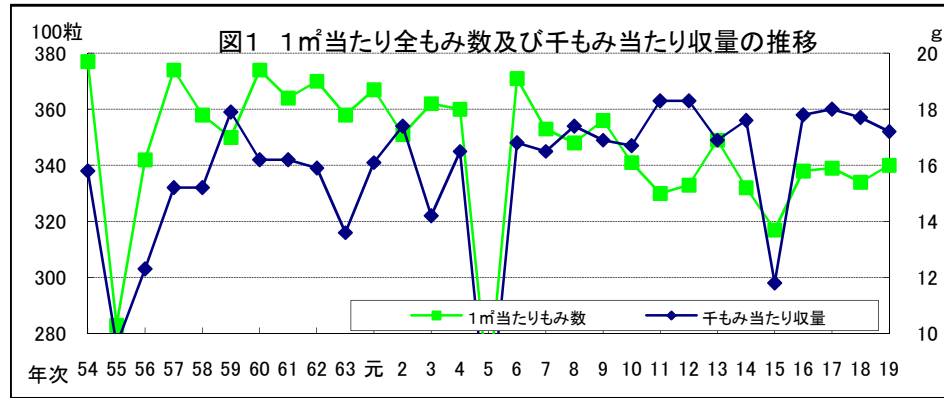
注:品種名の後の()は平成20年産作付面積割合(見込み)

	生 産 事 情
福岡	温暖化によるマイナスの影響が現れはじめており、品質低下対策として遅植え指導等が行われている。「ヒノヒカリ」(約4割半)より収量水準の低い「夢つくし」(約4割弱)が増加している。
佐賀	温暖化によるマイナスの影響が現れはじめている。また生産調整の進捗状況から低収量地帯の作付割合が増加する見込みである。(資料No.8参照)
長崎	「ヒノヒカリ」(約7割)、「コシヒカリ」(約1割半)を中心とする品種構成に大きな変化はない。耐高温性があり収量水準の高い「にこまる」(約1割弱)は今後も増加の見込みである。
熊本	「ヒノヒカリ」(約5割)、「森のくまさん」(約1割半)、「コシヒカリ」(約1割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質低下対策として遅植え指導等が行われている。
大分	「ヒノヒカリ」(約7割強)、「ひとめぼれ」(約1割)を中心とする品種構成に大きな変化はない。品質低下対策として遅植え指導等が行われている。
宮崎	収穫時期の分散化を図るため、収量水準の高い「さきひかり」等の作付割合が増加している。品質低下対策として遅植え指導等が行われている。
鹿児島	「ヒノヒカリ」(約6割半)、「コシヒカリ」(約2割強)を中心とする品種構成に大きな変化はない。良食味米生産にむけた技術指導(適正な栽植密度の確保等)が行われている。
沖縄	「ひとめぼれ」(約8割)を中心とする品種構成に大きな変化はない。

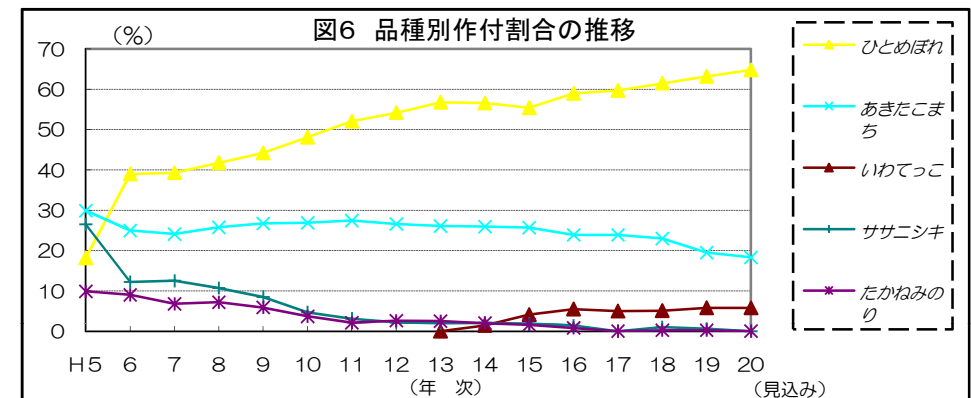
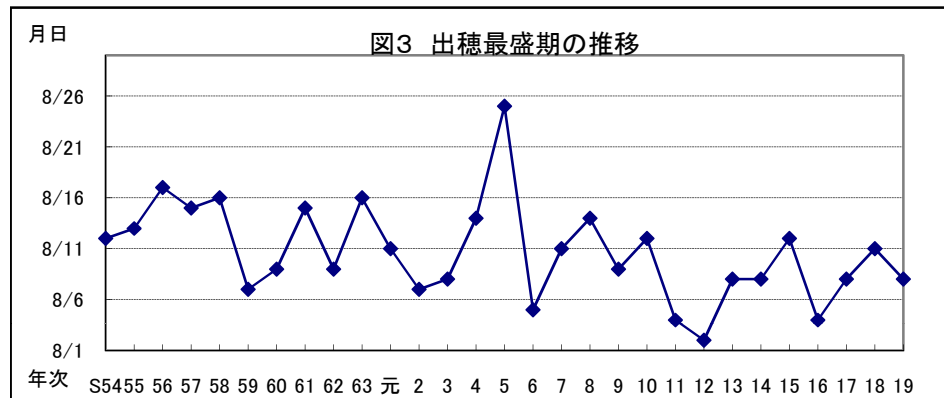
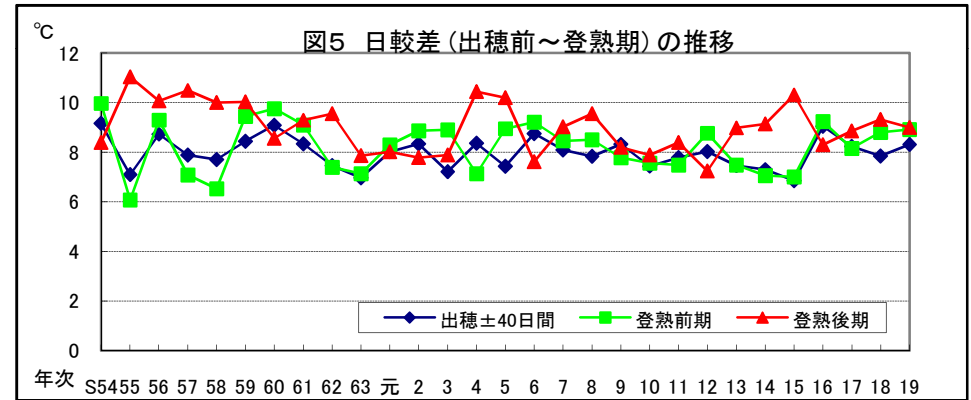
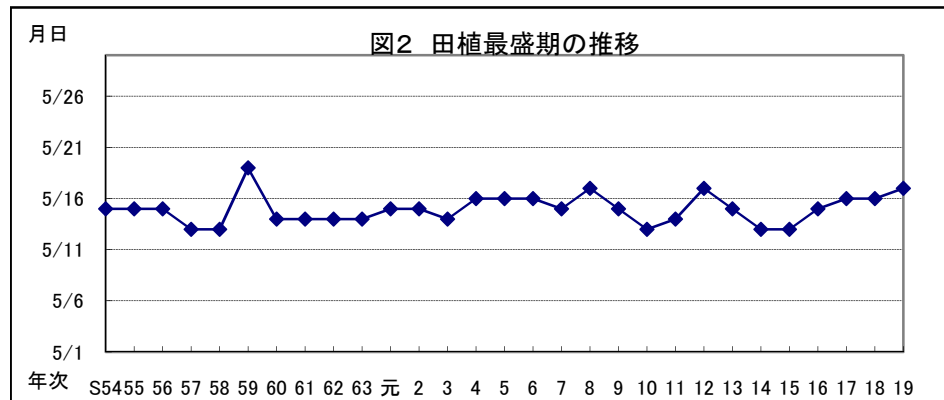
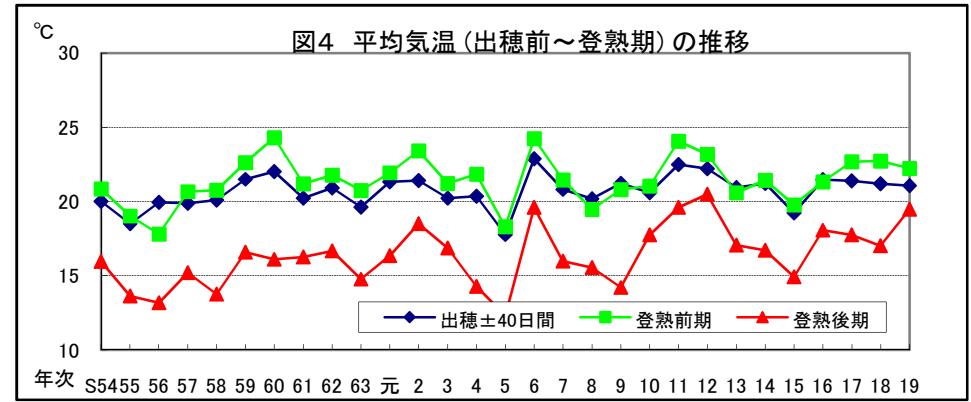
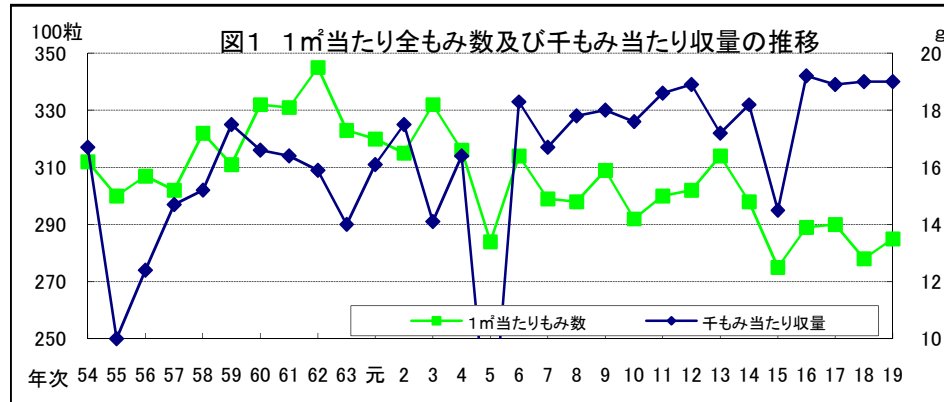
北海道



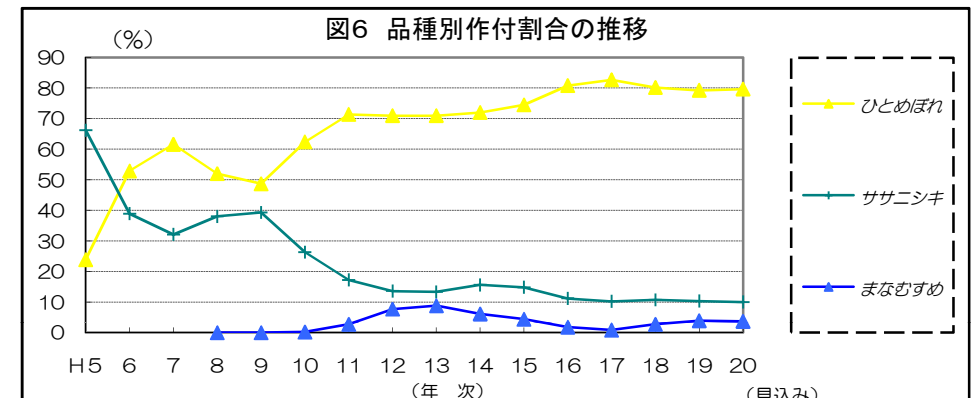
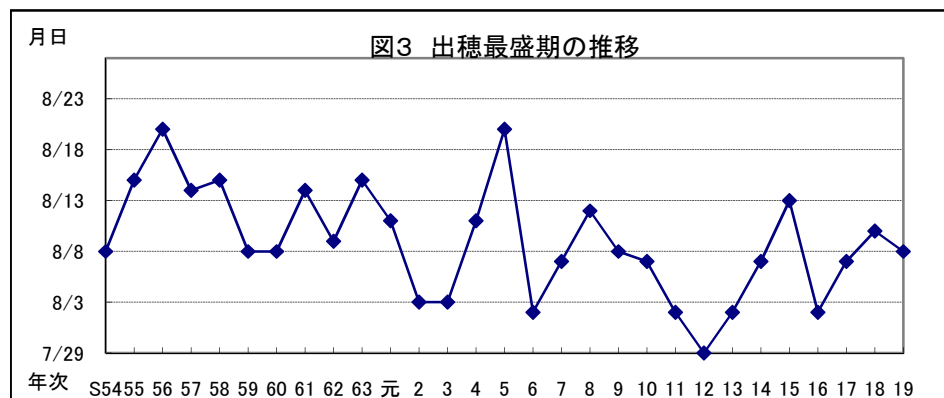
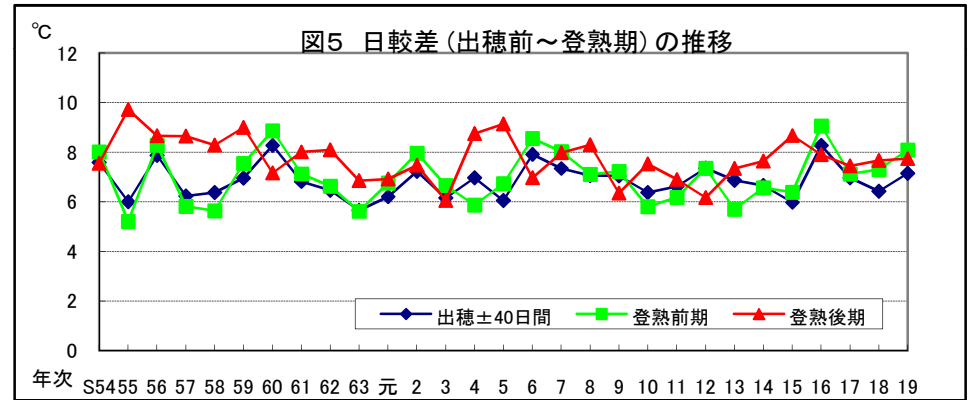
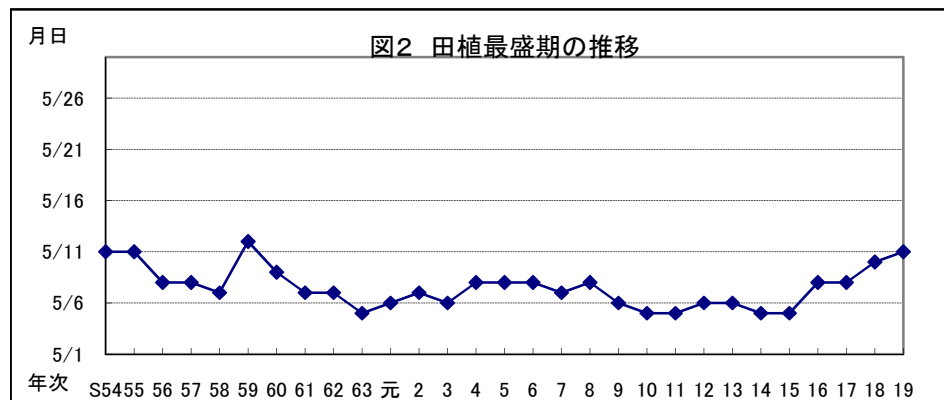
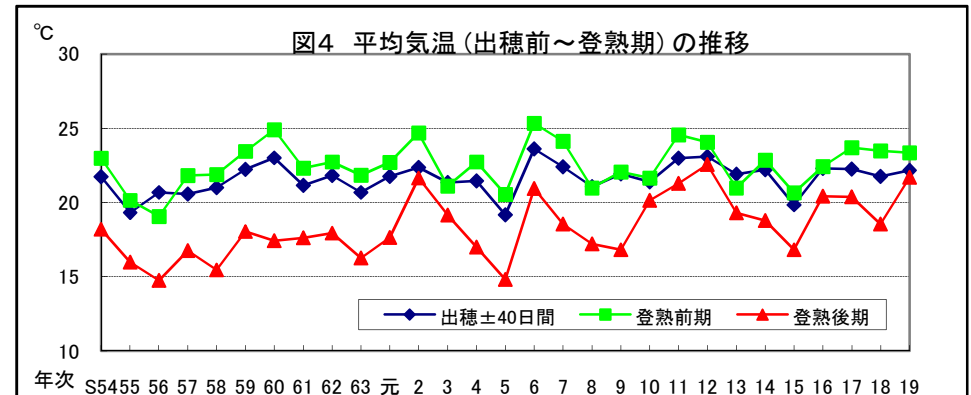
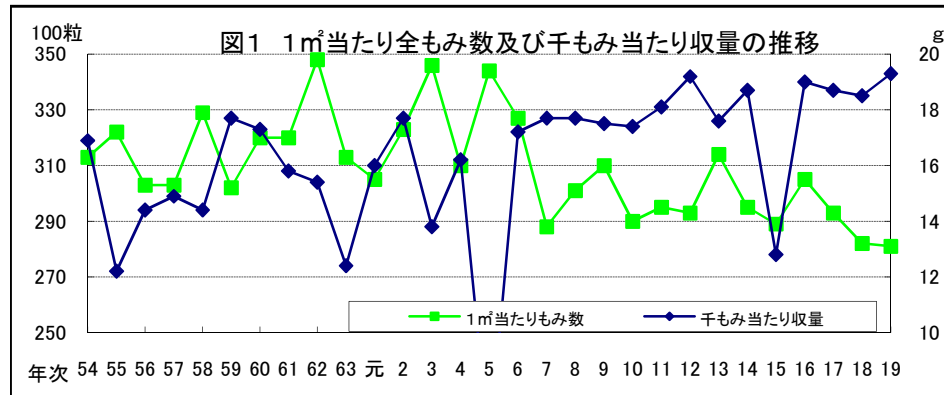
青森



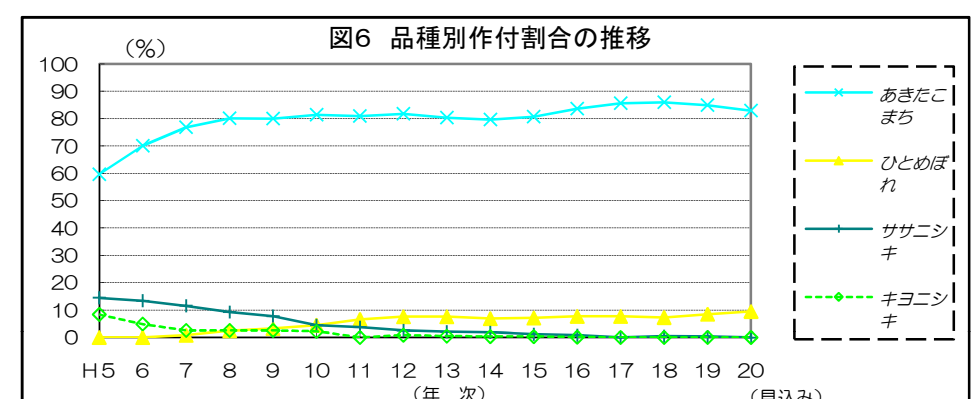
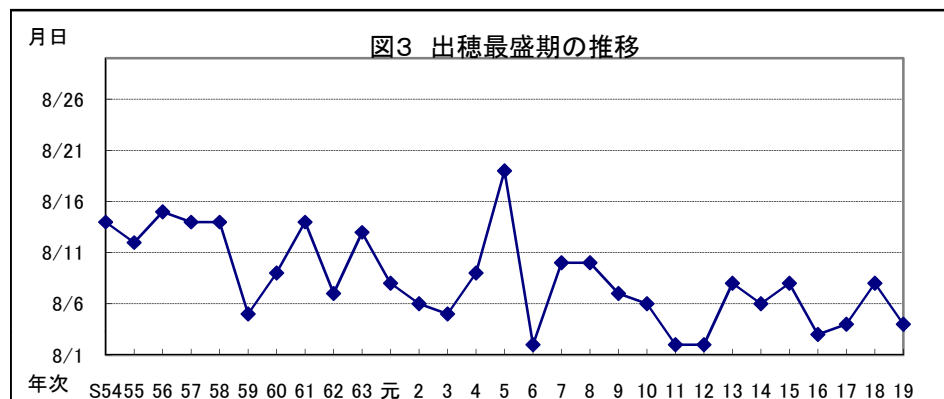
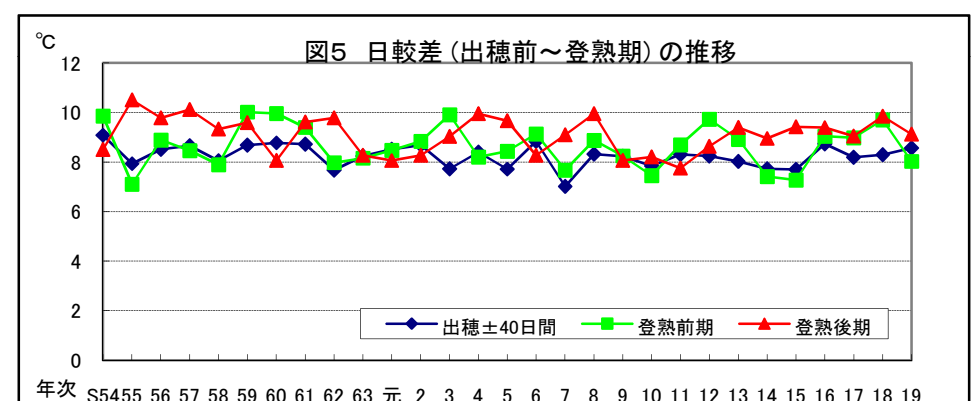
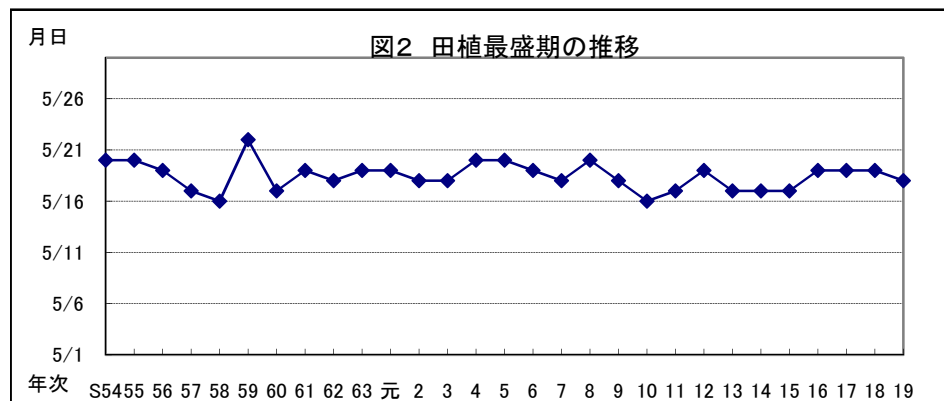
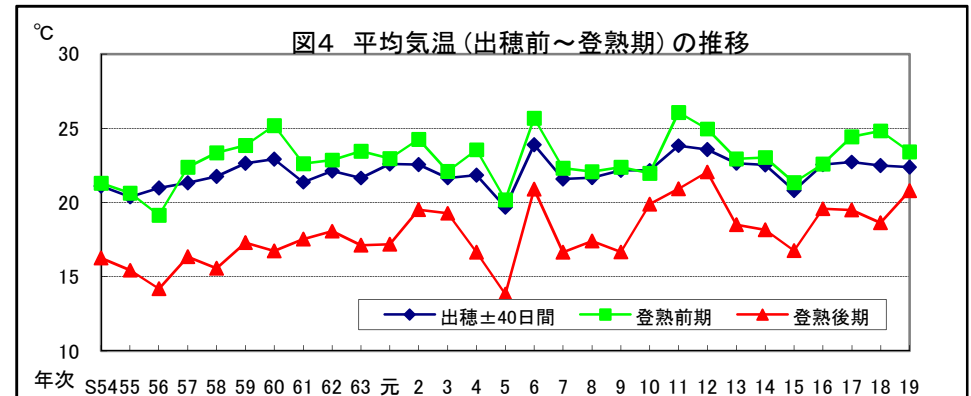
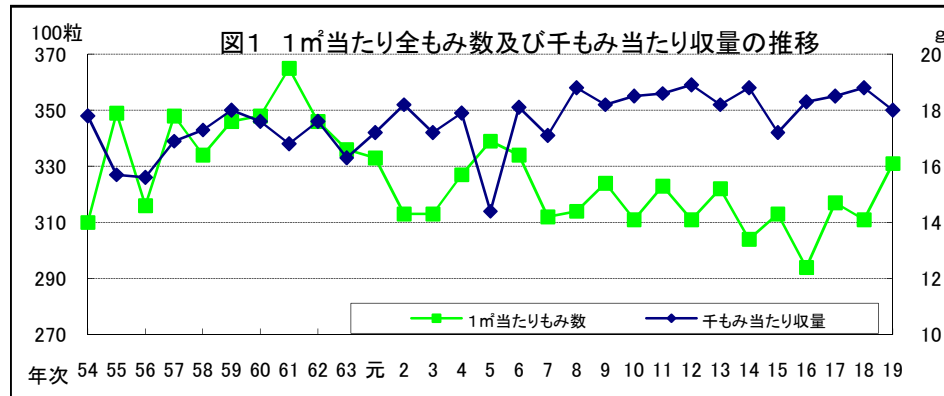
岩手



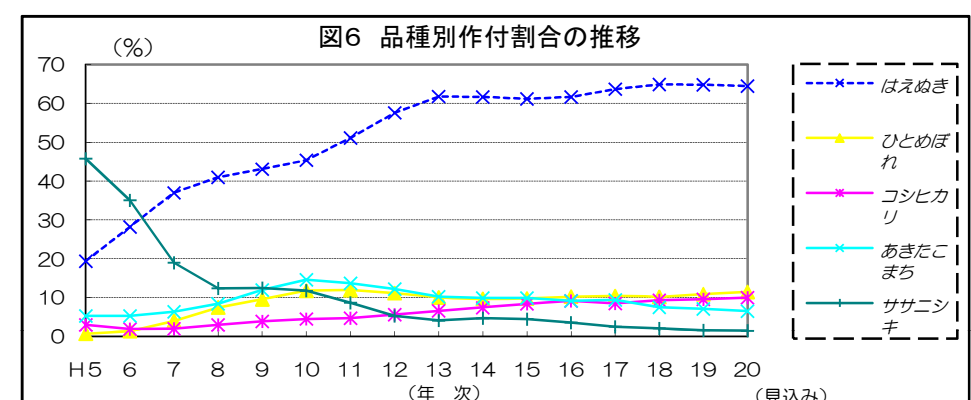
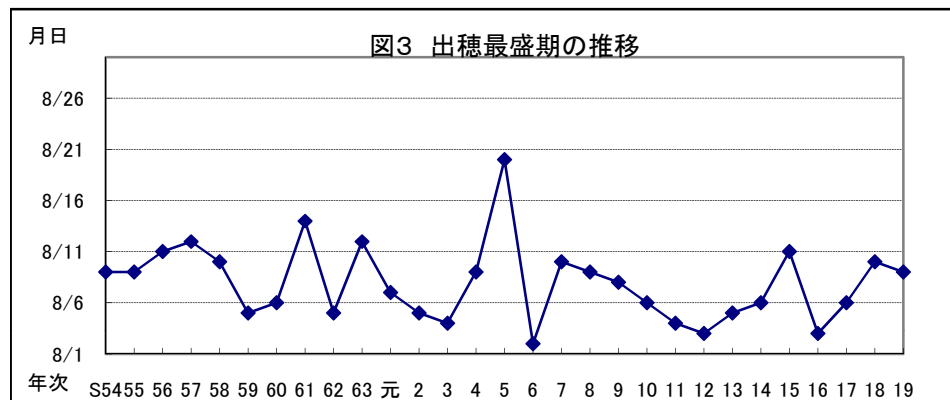
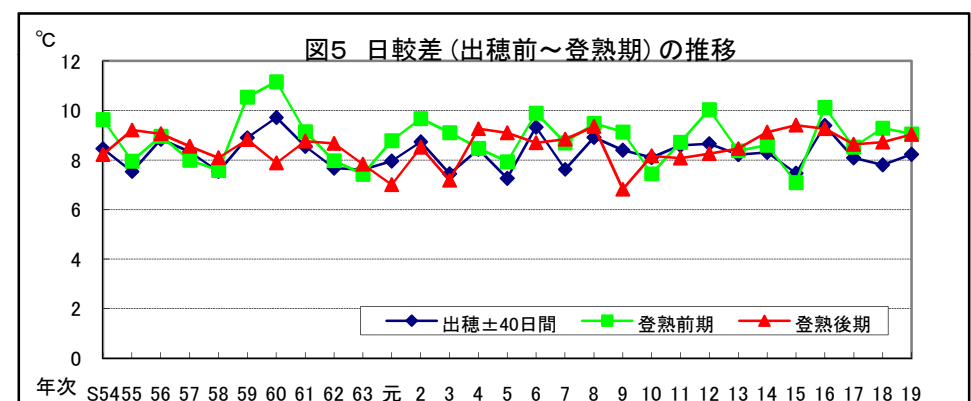
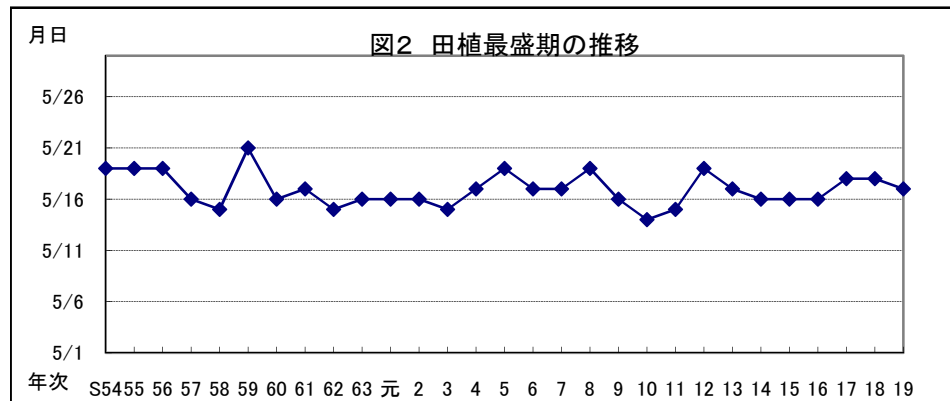
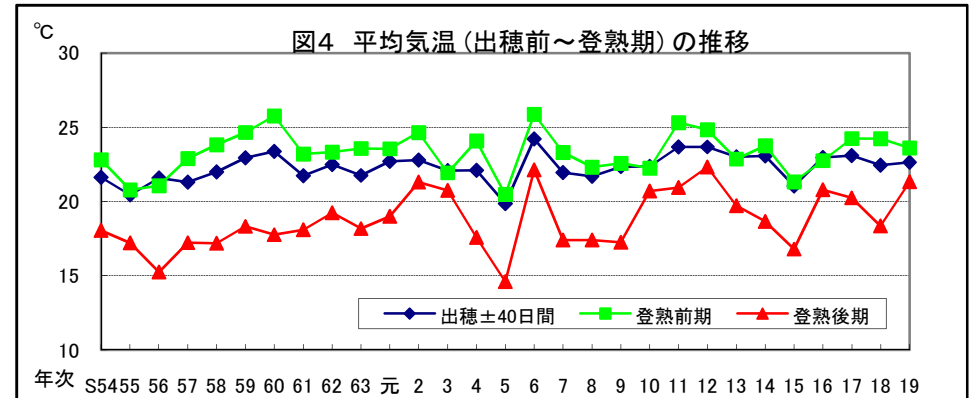
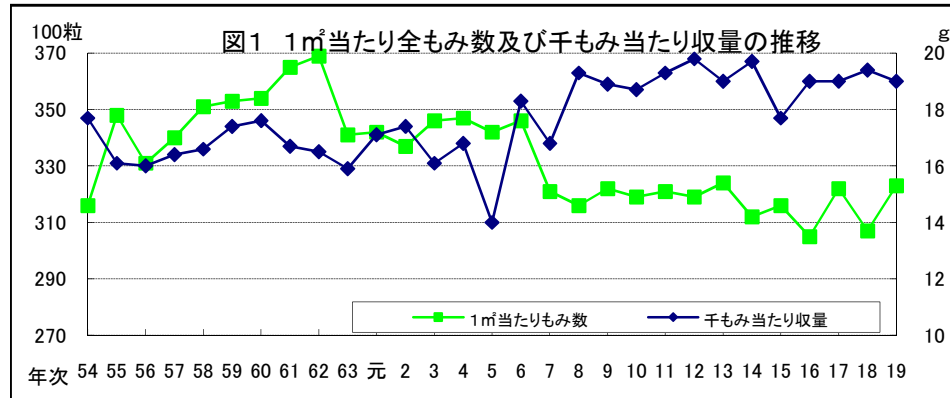
宮城



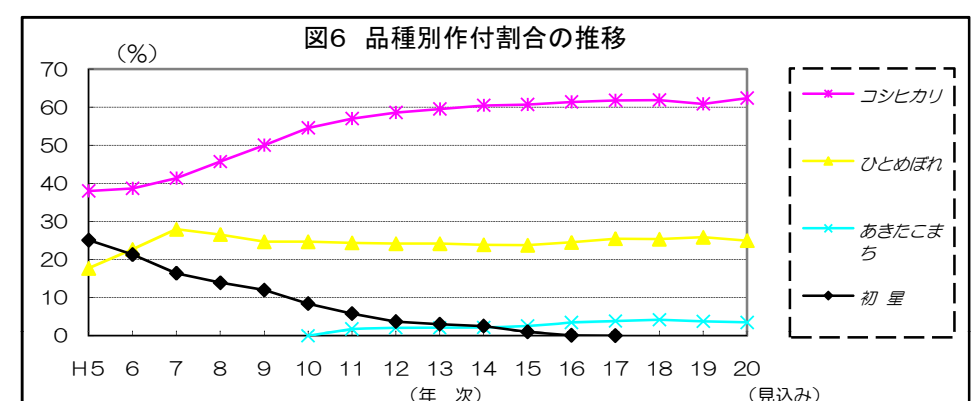
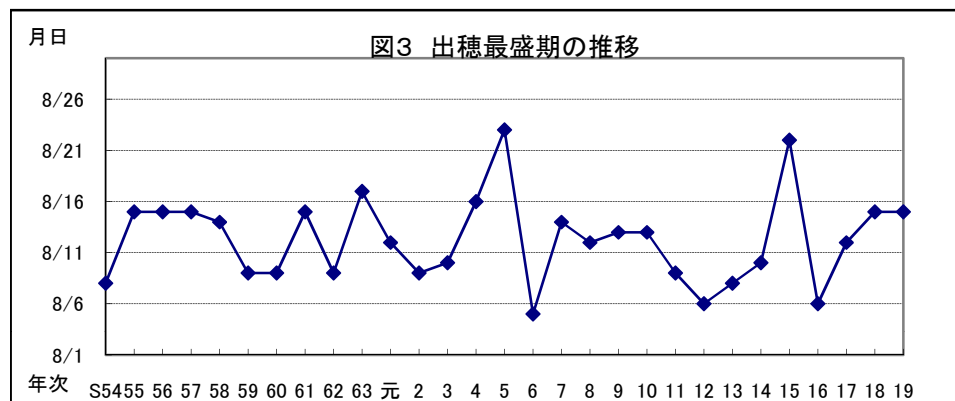
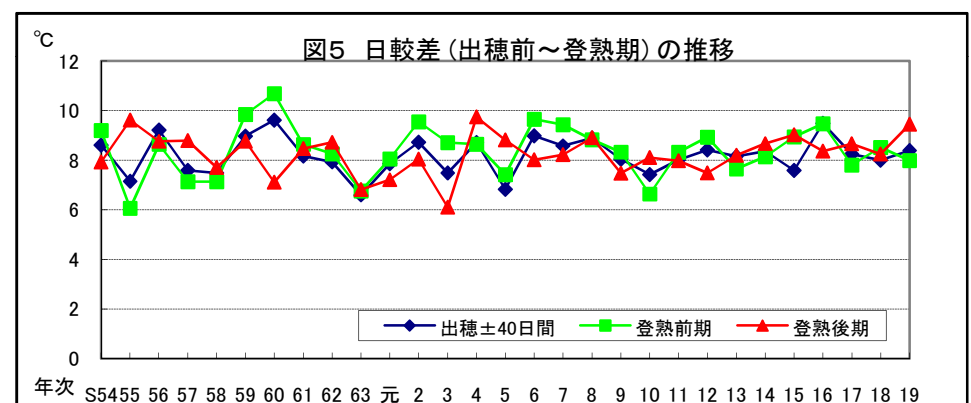
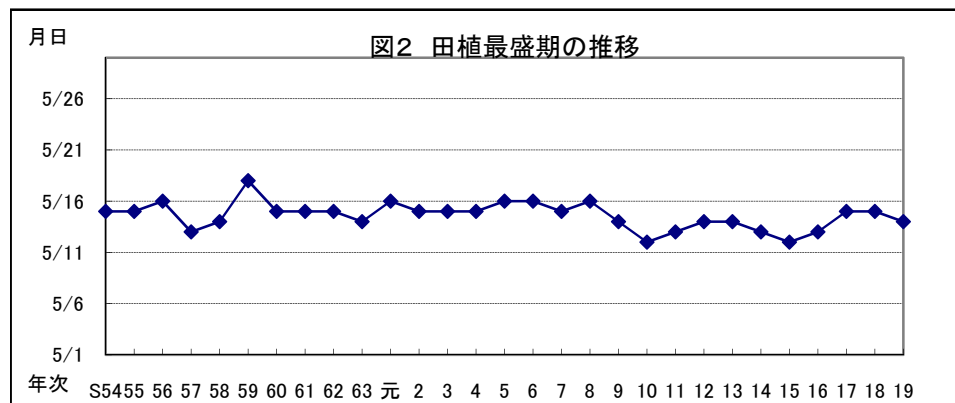
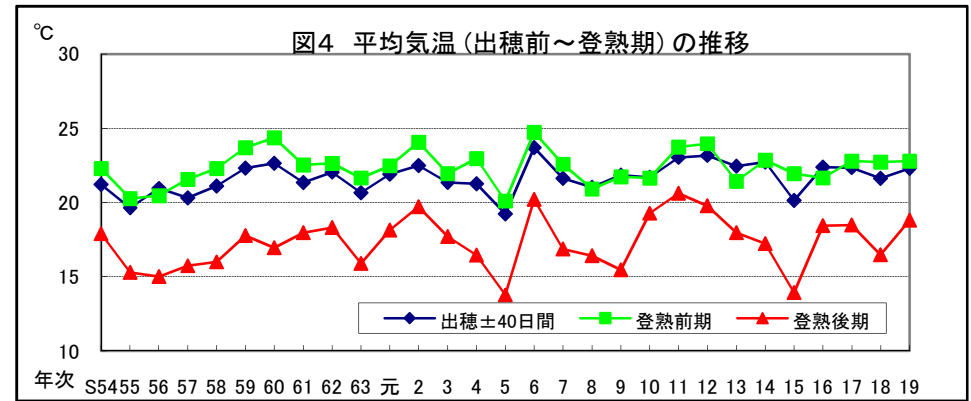
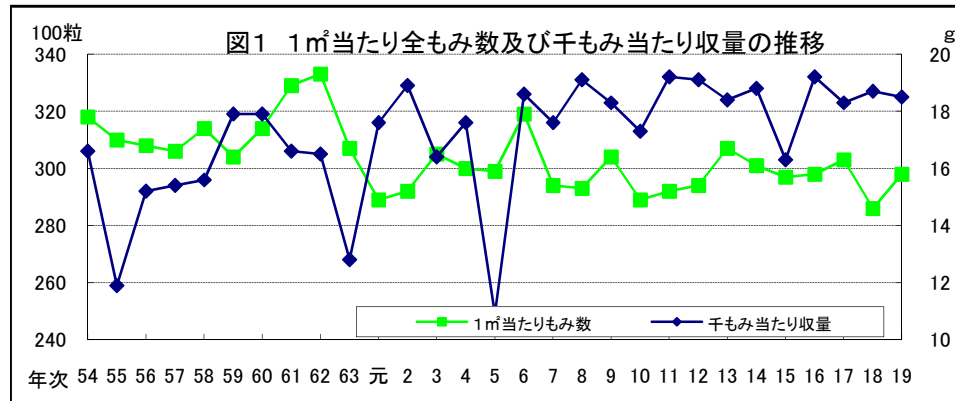
秋田



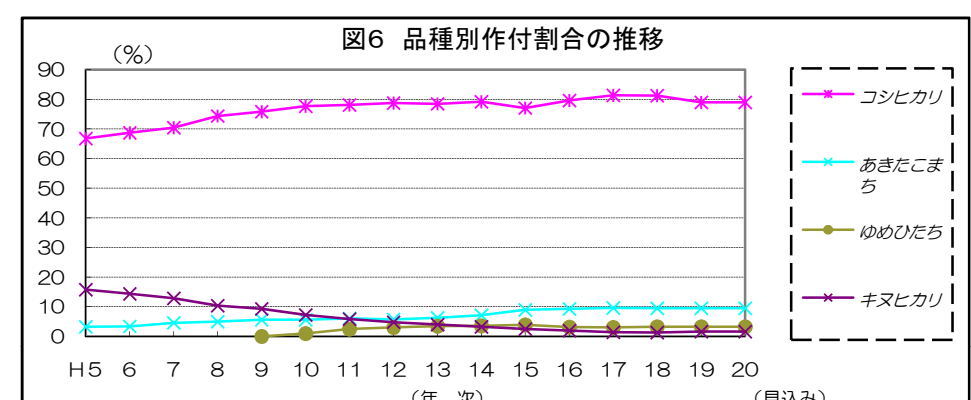
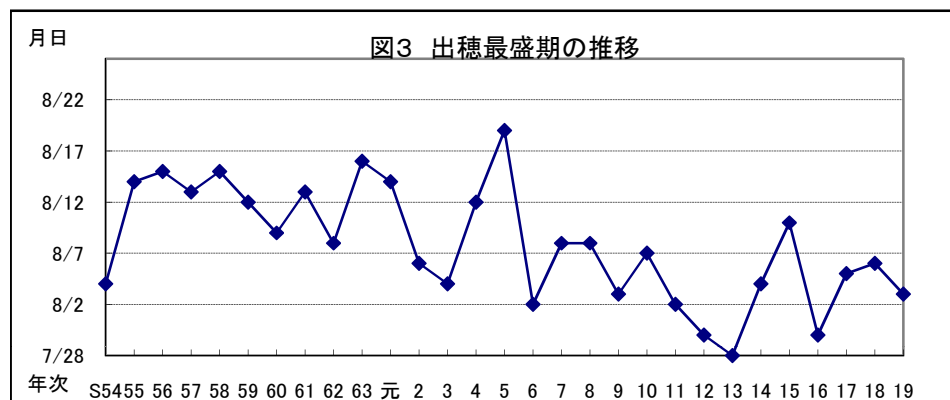
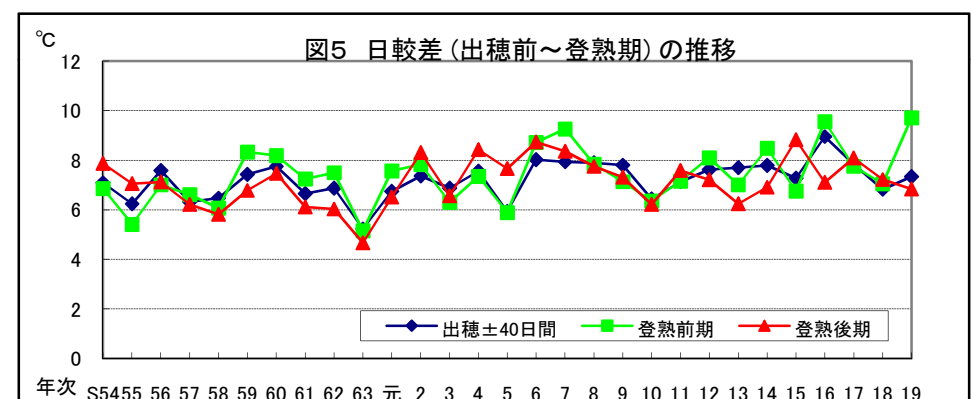
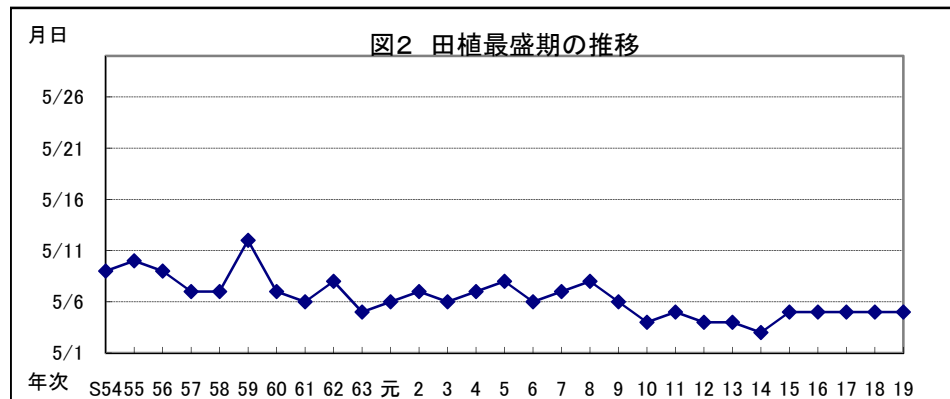
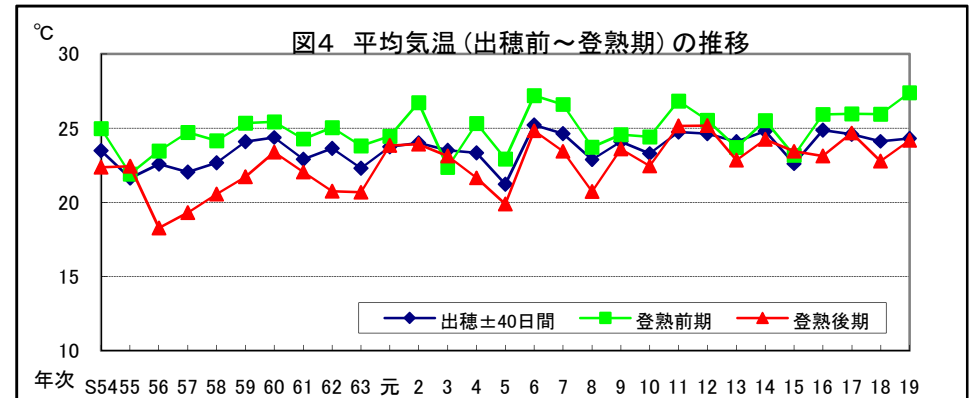
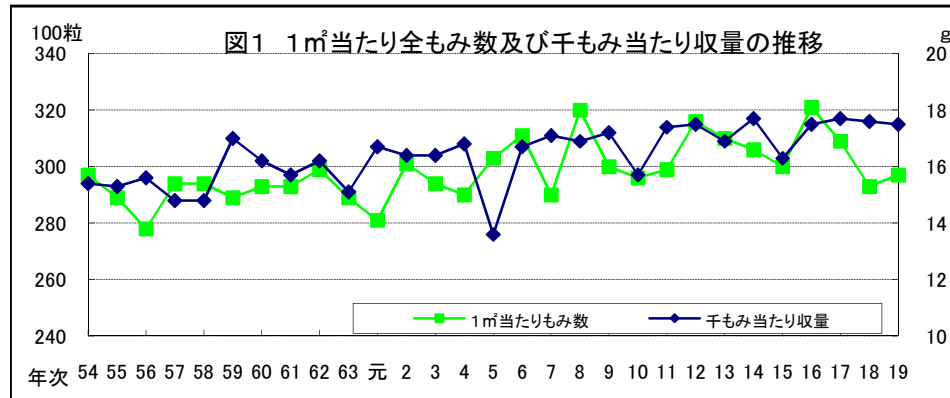
山形



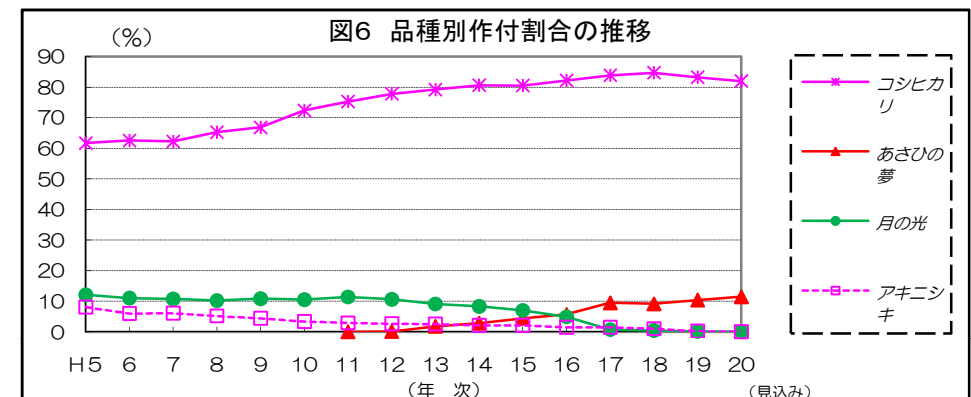
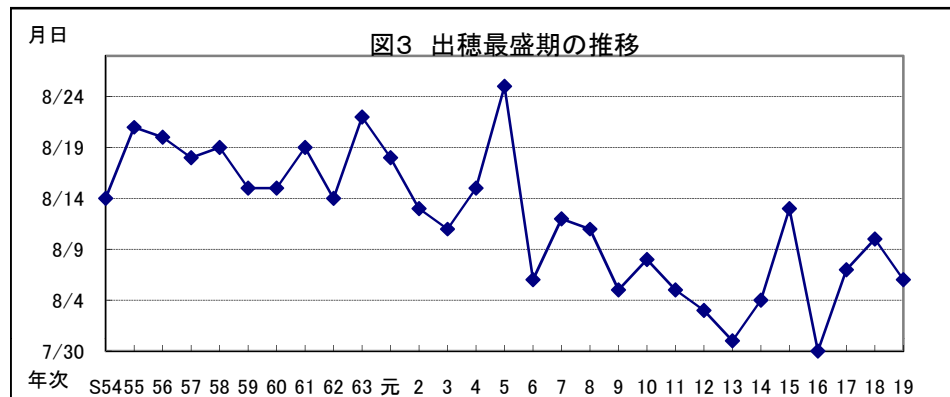
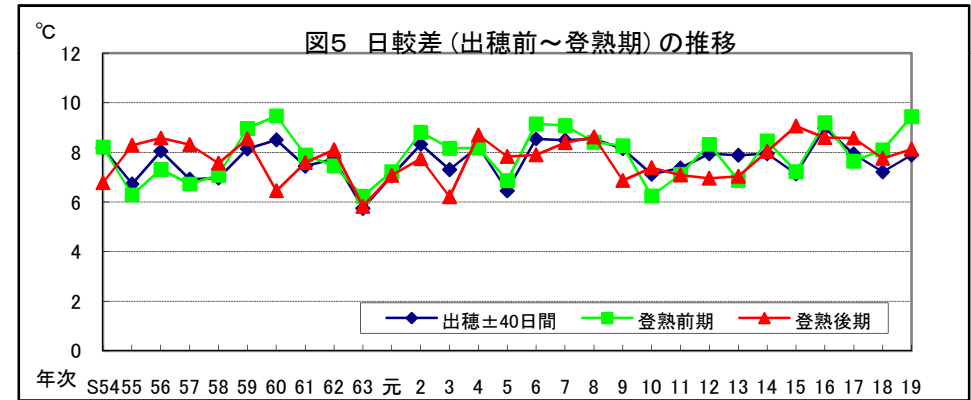
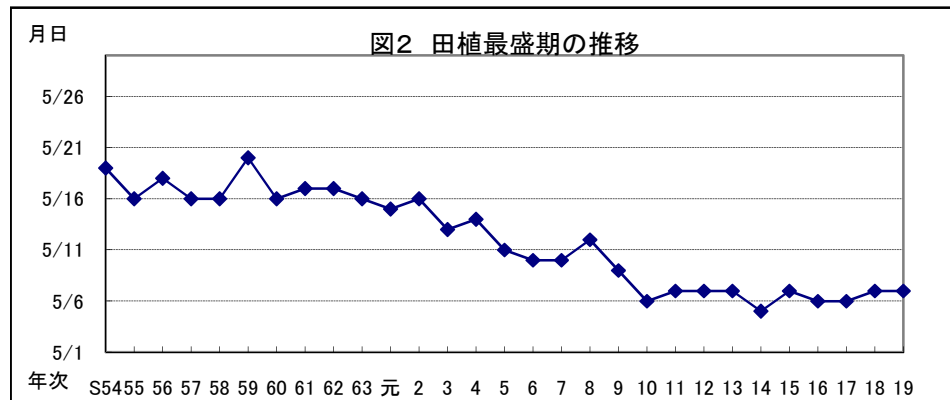
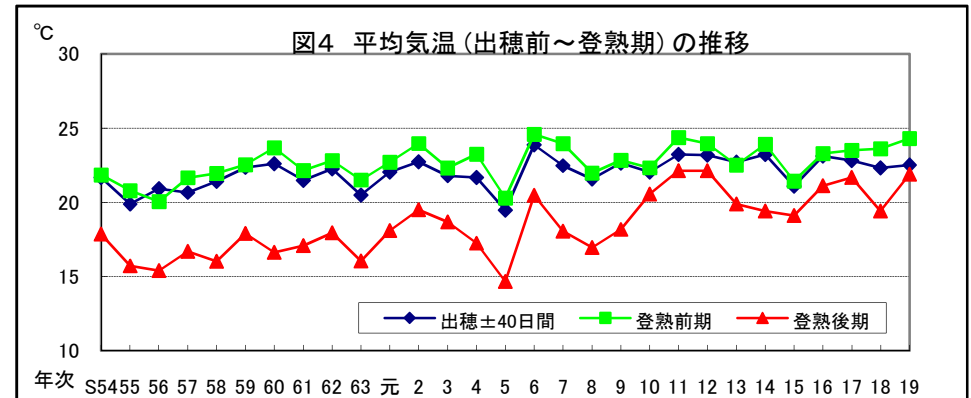
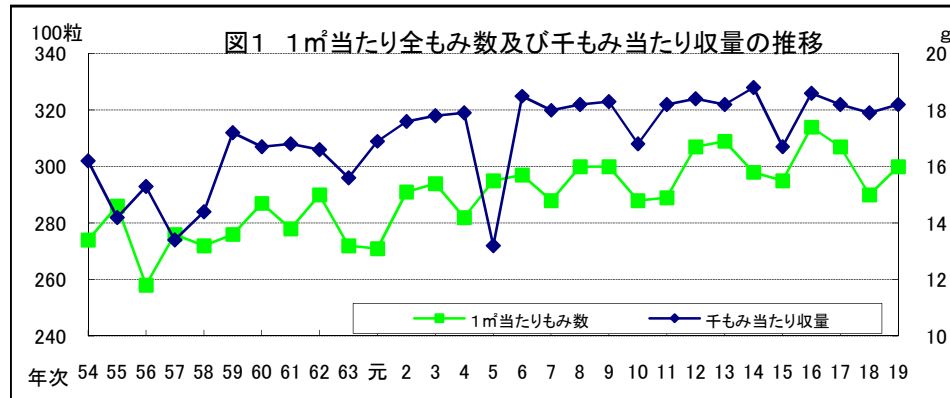
福島



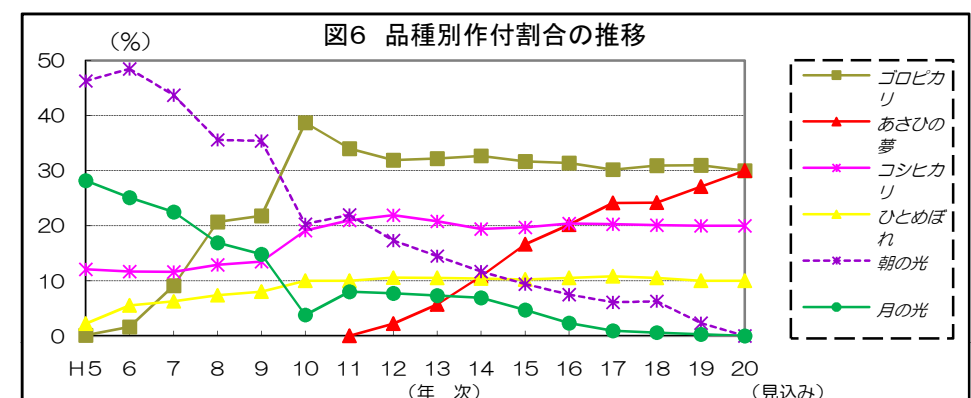
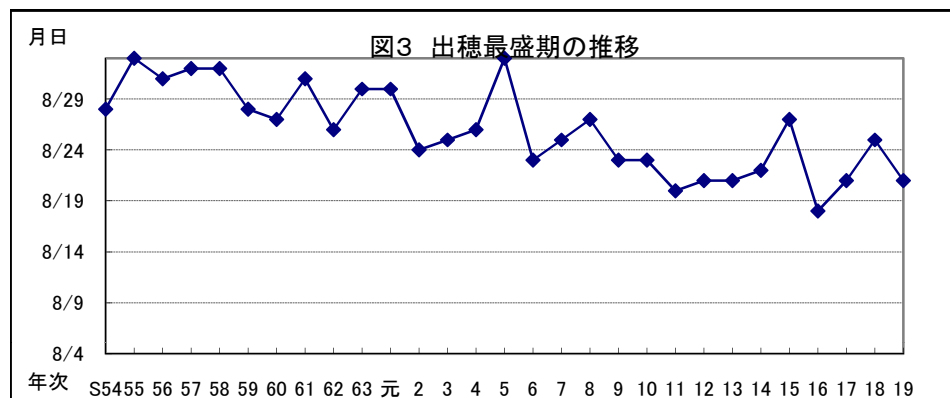
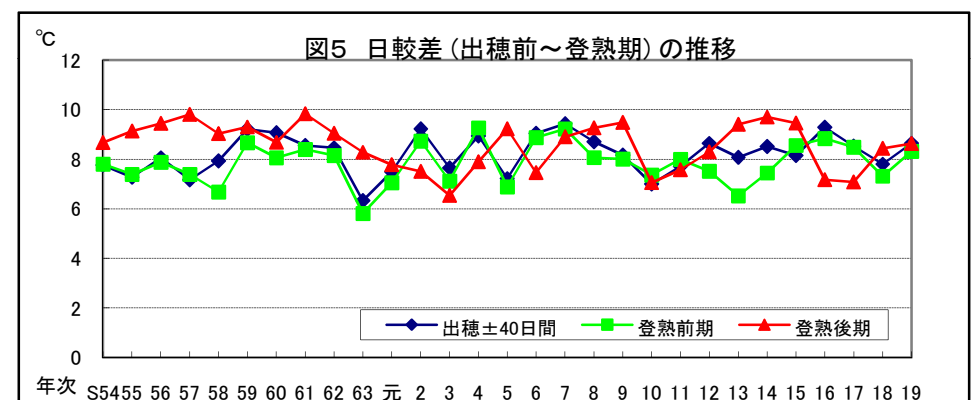
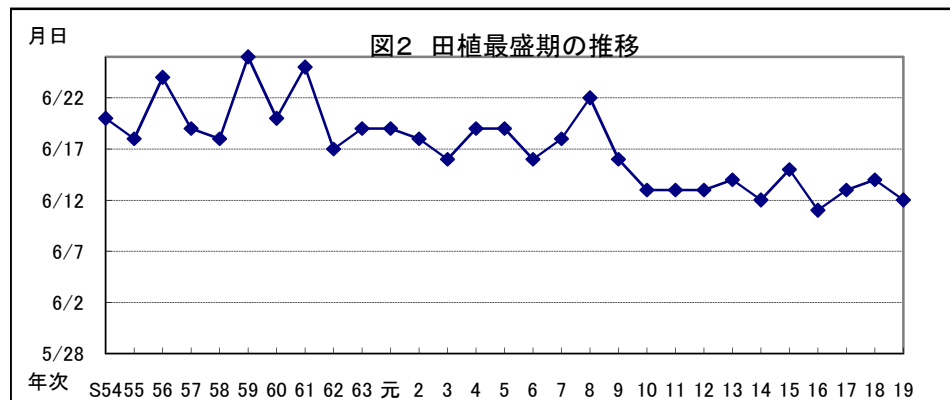
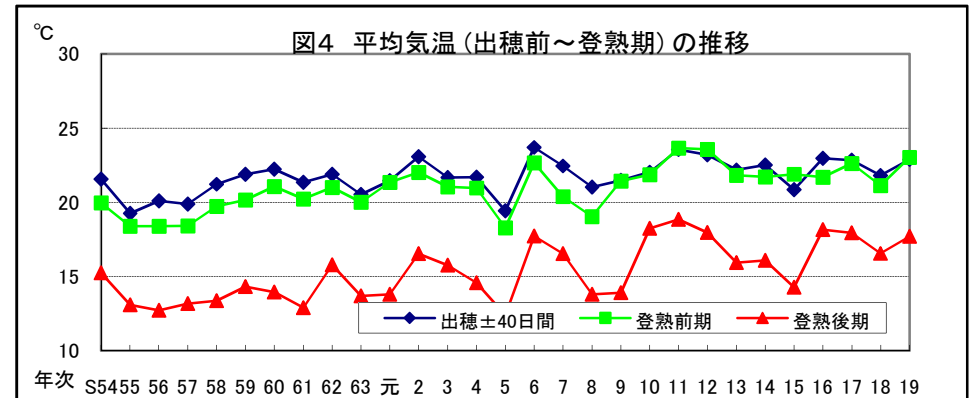
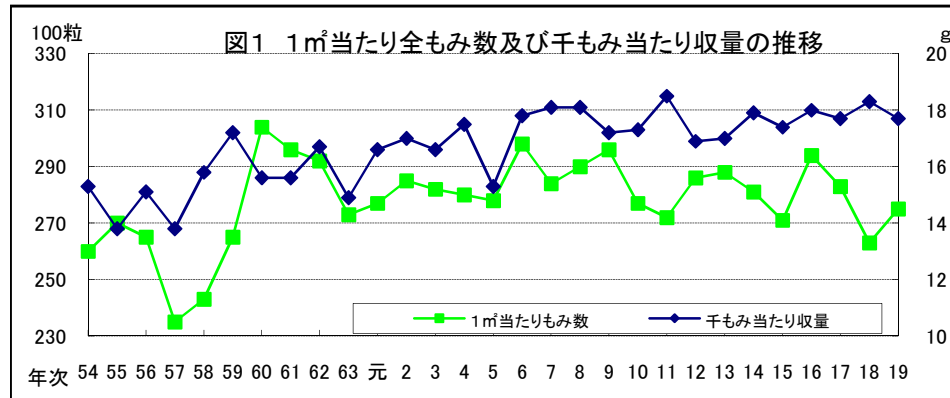
茨城



栃木



群馬



埼玉

